

地方における専門研修の指導環境を充実させるための指導医派遣の仕組み創設

< 背景・課題 >

本県の専門研修の年間必要養成数は234名 であるが、専攻医数は105名にとどまっている。
 一方、東京都の年間必要養成数は161名 であるが、シーリング後の募集定員に基づく専攻医数は1,343名と大幅に上回っている。

- 課題 新たなシーリングでは激変緩和措置がとられており、偏在の是正を図るためには不十分である。
- 課題 地方は指導体制が不足しており、十分な募集定員が設定できていない。

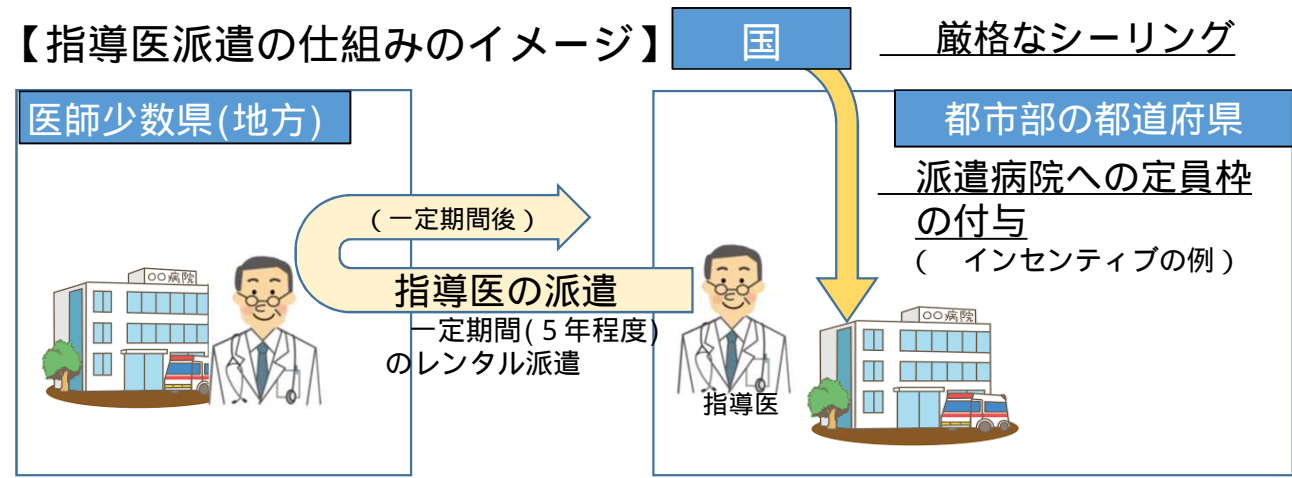
< 対応策 >

- 対応策 各都道府県各科の必要な養成数に基づく募集定員の設定など厳格なシーリングを実施していただきたい。
- 対応策 地方の指導環境を充実させるため、派遣元病院にインセンティブを付与することなどにより、都市部から地方へ指導医が派遣される実効性のある仕組みを創設していただきたい。

【シーリングの課題等】

〔新潟県(R2)〕	〔東京都(R2)〕
・年間必要養成数： 234名	・年間必要養成数： 161名
・募集定員：188名	・募集定員：1,435名 (シーリング後)
・専攻医数：105名	・専攻医数：1,343名

【指導医派遣の仕組みのイメージ】



専門研修のシーリング対象13科(内科、小児科、皮膚科、精神科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、形成外科、リハビリテーション科)の2024年に必要な医師数を達成するための年間養成数の合計